

# 小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	18	施策名	生涯学習の推進	
小施策コード	18-2	小施策名	社会教育施設の整備・充実	
小施策 主管課等コード	204000	小施策 主管課等名	生涯学習課	
評価責任者名	作山智規		内線番号	7340
評価シート作成者名	山本尚江		内線番号	7341

## Step 1 小施策の全体像

### 小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

現状と課題	社会教育施設の利便性, 安全性の確保のため, 社会教育施設の計画的な整備を行い, 良好な学習環境を提供すると同時に, それぞれの施設で行う事業の充実を図る必要がある。
取組の方向性	各公民館の管理運営や図書室活動を充実させるとともに, 社会教育施設の整備や指定管理化により, きめ細かいサービスの提供及び利用しやすい環境の整備に努める。
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	市民 社会教育施設
意図 (対象をどのようにしたいのか)	学習の場(施設)を提供する。

## Step 2 成果指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていくことを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25 年度 実績 (現状値)	27 年度 実績	31 年度 目標値	36 年度 目標値
A 学習講座数 (→)	講座	2,100	1,969	2,100	2,100
B 社会教育施設利用者数 (→)	人	1,186,584	1,000,594	1,187,000	1,187,000
C ( )					

## Step 3 市民ニーズの把握

新たに建設する施設については建設場所となる地域住民との意見交換の中から, 施設に対する要望等把握する。また, 講座や事業の内容について, 利用者アンケートなどを通じて, 市民が関心を持っている事柄や, 地域課題を把握する。

## Step 4 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	社会教育施設の整備及び管理運営を行う。	50
	国・県・ 他自治体	自治体が施設の維持・整備をしやすい財源支援制度を構築する。	10
	市民・ NPO	社会教育施設を利用し、新たに学んだ知識を生かして、講師やボランティアを行うなどして、施設事業に還元する。	30
	企業・ その他	指定管理者による社会教育施設の管理運営を行う。	10

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する  
（理由）

盛岡市が主体的に、市内全域の社会教育施設の現状について十分に把握し、計画的かつ効果的に施設の利便性、安全性を確保していくためには、国や民間の力を活用しつつ、現状どおり主導的な役割を担うことが適当と考えるため。

## Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 薮川地区公民館移転整備事業への着手
- ・ 区界高原少年自然の家大規模改修事業への着手
- ・ 学習講座数や施設利用者数を維持している。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 薮川地区住民との丁寧な協議、小・中学校廃止の条件としての整備の気運の高まり
- ・ アセットマネジメントに対応したことによる実施の決定
- ・ 公民館等の社会教育施設で、講座・教室等の実施数を維持し、内容の充実に努めている。

#### (3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

- ・ 施設の規模が小さく学習の場を十分に提供することが難しい施設がある。
- ・ 予算の確保により、講座内容の充実に努めるとともに、学習ニーズを把握に努める。

## 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 藪川地区公民館移転後の除雪体制などを整備する必要がある。
- ・ 区界高原少年自然の家については、改修中の施設利用者への対応やその期間の職員の業務の分掌などが課題
- ・ 小規模施設で学習活動を増やせない。
- ・ 勤労青年層の公民館の講座への参加が少ない。

### (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 藪川地区公民館については、現在、ほぼ職員の手による除雪を行っており、移転後、駐車場の拡大などに伴い除雪範囲が広がることが想定されること。
- ・ 区界高原少年自然の家については、改修により宿泊の受入ができないときの職員の業務量が見えないこと。
- ・ 小規模施設において、部屋数が少ないこと、職員数が不足していること。
- ・ 公民館の学習講座の開催時間帯が、平日の日中に集中していること。

### (3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

- ・ 藪川地区公民館については、除雪の手法の検討とそれに伴う予算の確保が必要となる。
- ・ 区界高原少年自然の家については、改修期間中の事業計画の作成
- ・ 施設規模の拡大、職員数の増員、兼務の解除
- ・ 夜間や土日等を中心に、勤労青年層に向けた講座の拡充を図る。
- ・ ターゲットを明確にした講座の実施と内容の工夫
- ・ 青年層を取り込むための工夫

## 3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

- ・ 藪川地区公民館については、地元を含めた除雪手法の検討と予算の確保
- ・ 区界高原少年自然の家については、改修期間中の事業計画と人員配置の検討
- ・ 小規模施設については、大規模改修に伴う複合化の機会などを捉えて、充実を図る。
- ・ 講座内容を工夫して、広く多彩な内容のものを実施する。
- ・ 講座の実施時間帯や曜日を工夫するほか、同じ講座を複数回行う等、多くの市民が参加しやすいようにする。
- ・ 職員を対象とした研修を増やす等して、講座の企画を担当する職員のスキルや資質の底上げを図る。

## Step 6 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

松園地区公民館活動事業の中のプレールーム委託事業

### 2 1で記載した事業についてその理由

実施内容が児童センター事業と同等であり、教育的効果より児童福祉的な効果の方が高いため。導入時から、児童センター機能とのことであった。

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

児童厚生員等の配置が必要で、事業内容が児童センターと同等であることから、保健福祉部に移管する。